

2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	経済	身分	教授
氏名	深町英夫		
NAME	FUKAMACHI Hideo		

1. 研究課題

(和文) 中国党国体制の歴史的研究

(英文) A Historical Study of the Chinese party-state regime

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

これまで約20年にわたって、1910年代の孫文による党国体制構想の提起、および1920年代～1940年代における中国国民党の党国体制の研究を行なってきた。1949年以後、この体制は中国共産党に受け継がれ、時代とともに変容しながらも今日まで維持されている。この過程において一貫して追求されたのは、中国を近代的な国民国家へと変貌させることであり、とりわけピラミッド状の党組織の指導の下、各階層の人民を近代的な国民へと馴致することであった。その経緯を具体的に検証するために本研究では、中国国民党によって発動・推進された新生活運動に、多角的・総合的な分析を加えるとともに、その取り組んだ課題が中国共産党によって継承されていった歴史的な意義を、より長期的・巨視的な観点から検討した。新生活運動の思想的起源は、蒋介石や汪精衛・閻錫山といった中国国民党の指導者が日本で、黄仁霖・徐維廉といったキリスト教徒出身の活動家が米国で、それぞれ学んだ生活規範にある。この運動は国民党政権内の派閥間競争とも連動しつつ、中央から地方に至る党組織の指導の下、全国的な大衆運動として発動・推進されたが、中国人の伝統的な身体観・社会観と矛盾しがちなため、一般人民は往々にして面従腹背の態度を示し、運動は十分な成果を上げたとはいいがたい。それゆえにこそ戦後は中国共産党政権によって、やはり党組織の指導の下で、愛国衛生運動や五講四美運動という形で継承されていった。

(英文)

Under the party-state regime of the Kuomintang, the New Life Movement was launched and executed in the 1930s and 1940s in order to discipline the Chinese people to become modern citizens and ultimately transform China into a modern nation-state, which was a historical duty to be taken over by the Communists after 1949.